

諮問事項		
	項目	内容
1	適正規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和における教育上望ましい学校規模、学級規模の人数及び根拠について</li> <li>少子化社会を見据えた、学校の適正規模の考え方及び対応方法について</li> </ul>
2	適正配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化社会を見据えた、学校の適正配置の考え方及び対応方法について</li> </ul>
3	適正規模化の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模校化、小規模校化の解消に向けた、対応の考え方、手段について</li> </ul>
4	通学区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学区域設定の目的と優先順位、学びのエリアの小中学校の整合を取る手法について</li> </ul>
5	小中一貫型学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育推進の観点から、施設一体の小中一貫型学校の教育的効果について</li> <li>施設一体の小中一貫型学校として相応しい条件・考え方、配置のあり方について</li> </ul>
6	地域協議	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民との協議の進め方について</li> </ul>

課題認識	
項目	内容
適正規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模校への効果的な対応が必要である。</li> <li>1学級あたりの適正人数の根拠を再確認する。</li> <li>1学級あたりの人数の適正化が困難である。</li> </ul>
大規模集合住宅対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>一時的な児童・生徒数の増加により、一時的に適正規模を超えるものの、将来的には適正規模内に収まる予測の中での対応が求められている。</li> <li>将来学校施設としての機能が不要となる可能性がある中での、施設整備の対応策の検討が必要である。</li> <li>一時的な学校規模の大規模化に対応するのかなど、適正規模の考え方について整理する必要がある。</li> </ul>
大規模校化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模校化の解消にむけた有効な手段を検討する。</li> <li>大規模校の周辺も大規模校のため、通学区域変更による適正化は困難であり、増築のための校地や新たな学校用地の確保も困難である。</li> </ul>
通学区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学区域設定の目的と優先順位を明確化する必要がある。</li> <li>通学距離の制限もあるため、学びのエリアと小中学校の通学区域の整合を取ることが難しい。</li> <li>町会境界との整合性を含め、地域と学校の関りについて整理する必要がある。</li> </ul>
小中一貫型学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育の推進の観点から、施設一体の小中一貫型学校の果たす役割、意義、目的、メリットなどを明確化する必要がある。</li> <li>施設一体の小中一貫型学校になりえる学校及び配置に関する基本的な考え方の整理が必要である。</li> </ul>
地域協議	<ul style="list-style-type: none"> <li>1校改築するまでに8年間を要しており、今後複数の学校施設が老朽化を迎える中で、円滑な教育環境の整備を行うことが難しい。</li> <li>地域住民の協力を得ているが、協議期間が長期にわたるなどの負担を考慮する必要がある。</li> </ul>
施設内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び舎としての機能だけでなく、地域コミュニティの核となる施設及び防災拠点の機能も求められている。</li> <li>学校と地域が共用する諸室の考え方が必要である。</li> <li>地域連携、防災拠点を踏まえた配置の考え方が必要である。</li> </ul>
施設更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の更新需要に追いつかない。</li> <li>児童・生徒数と学校数のバランスについて考える必要がある。</li> <li>改築時の高層化について整理する必要がある。</li> </ul>